

新基地建設反対名護共同センターニュース

米シンクタンク「辺野古基地は完成しない」と発表 “現場の座り込みが内外の世論を動かしている”



毎日座り込む、地元住民の島袋文子オバア（車椅子）と金城武政さん



上は24日（水）朝のゲート前。平和市民連絡会がリードしました。左は23日（火）のゲート前。平和運動センターがリード。



キャンプ・シユワブゲート前では連日30人〜100人規模での座り込み抗議行動が続いています。22日（月）も朝9時、ゲート前に30人を超える人々が座り込みました。司会の県統一連・瀬長和男事務局長が「アメリカのシンクタンクが『辺野古新基地は完成しないだろう』と発表しました。日本の多くの専門家も『脆弱地盤などで新基地の完成は不可能だ』と述べています。私たちがここで座り込んでいることで内外の世論を動かしています。引き続き座り込みを続けるなら新基地を中止させることができます。機動隊との接触を避けるなど感染症対策をとりながらこれからも頑張りましょう」と訴えました。

機動隊との接触を避け座り込み続けよう！

学習会のご案内

へり基地反対協主催の学習会のお知らせです。

●日本学術会議と現代史②

日時：4月1日（木）
10:30～11:30

場所：辺野古テント村

講師：屋富祖昌子先生
（日本科学者会議）

●辺野古埋立ての現状と課題

日時：4月16日（金）
午後6時～

場所：21世紀森体育館会議室

講師：北上田毅氏
（土木技師・平和市民連）

「辺野古の歌姫」久々の熱唱

京都から川口真由美さん

“辺野古の歌姫”こと京都の歌手・川口真由美さんが18日～21日まで「辺野古」の闘いの現場に駆けつけました。1月も2月もコロナ禍でやむなくキャンセルとなり、今年初めて現場で歌声を披露しました。18日は辺野古テント村で「ケセラ」（辺野古バージョン）などを熱唱、80人ほどの参加者が手拍子で応え盛り上がりしました。19日は安和での行動日。早朝から土砂の搬出作業がすすむ中でボートとカヌーチームが抗議行動を展開しました。川口さんはここでもカヌーチームを前に熱唱し、激励しました。



テント村と安和の棧橋前で熱唱する川口さん

戦没者を冒瀆する土砂採取やめさせよう！オール沖縄会議が学習会



北上田さん



具志堅さん

具志堅さんはさらに「厚労省がDNA鑑定を進め遺骨を家族に返す一方、防衛省は遺骨の残る土砂を辺野古に使うとしている。同じ政府の中で二つの省が相反することをやろうとしている。こんな矛盾は考えられない」と菅政権を批判しました。

赤嶺政賢、伊波洋一、高良鉄美の衆参国會議員が連帯の挨拶をしました。

矛盾する厚労省と防衛省

業者は遺骨を識別できない
北上田さんは「県知事は鉾山開発には中止命令、設計変更申請を不承認としてほしい」と話しました。

具志堅さんは、「業者が目視で戦没者遺骨に配慮して土砂採取をすると政府が説明しているが絶対無理だ。間違っている」と話しました。

辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議は20日、那覇市内で沖縄本島南部の土砂採取問題についての学習会を開き約60人が参加しました。平和市民連絡会の北上田毅さんと沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんが南部に残る戦没者遺骨の現状や防衛局の土砂採取計画の問題点を報告しました。

